

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月6日

〔評価実施概要〕

事業所番号	272400649		
法人名	社会福祉法人つがる三和会		
事業所名	グループホームいたや荘		
所在地 (電話番号)	〒038-3645 青森県北津軽郡板柳町辻岸田66番地の1 (電 話) 0172-79-2101		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 3日	評価確定日	平成 19年 11月 6日

〔情報提供票より〕(平成 19年 8月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 7 人, 非常勤 16 人, 常勤換算	9.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	9,600~冬季12,600 円
敷 金	有 (円) 無 ○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無 ○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (8月 16日現在)

利用者人数	27 名	男性 7 名	女性 20 名
要介護1	8 名	要介護2	12 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.8 歳	最低 57 歳	最高 104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	弘前小野病院・佐藤歯科医院
---------	---------------

〔外部評価で確認されたこの事業所の特徴〕

りんご畑に囲れ窓からは岩木山も眺めることができ、近くにスーパーもあり利便性の良い環境にある。また向かいには小学校もあり子供たちとの交流も図られている。天然温泉であり、入居者はいつでも入れることができ、また畑作りもされ入居者は皆生き生きと生活されている。職員皆、入居者一人ひとりを把握しており、常に会議、勉強会等を開き、ケアサービスの向上に意欲的である。職員が一体となって入居者によりよいケアを提供するため前向きに取り組まれているグループホームである。

〔重点項目への取り組み状況〕

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム独自のたよりを発行するなどして、グループホームの役割が今後も地域に浸透されるようにすることが検討課題としてあったが、独自のたよりも定期的に発行されており情報の発信がされている。また、職員会議も可能な限り出席されており出席できない人には会議録をみるよう徹底されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を全職員が把握しており、自己評価を全職員で話し合い、そしてケアの見直しやサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に一回行われており、評価の報告や話し合いがされ、会議のメンバーには地域の代表、家族、役場の関係者が出席し十分な話し合いの場が設けられている。議事録も整備されケアに活用されサービス向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	意見箱を設置したり、面会時に家族に口頭で聞いたり、請求書送付時に意見用紙を送りいつでも意見等を聞き入れ、対応できる体制である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校も近くにあり子供たちが訪れたり、地域の行事等に参加したり慰問があったりと地域との関わりがある。また災害時は地域協力委員の協力が得られるようになっている。現在、地域貢献ということで廃品回収を行うことを検討中であり、今後実践されることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念としては、自ら利用したいさせたい施設作り、三つの和「平和」「調和」「親和」を基にグループホームは「自分らしく居心地の良い安心できるグループホーム」という理念をあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	実際のサービスの場面からも理念共有しサービスに連動できるような体制や、研修、会議で話し合いが持たれている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣接するサービス(ケアハウス、デイサービス)との関わりは十分図られており、合同での行事やお祭りなど地域との関わりはある。小学校も隣接していることから入居者の孫が訪れたりしている。	○	現在、地域貢献に関しては具体的方法(廃品回収)なども検討中であり、今後実践されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員評価の意義を理解し、日ごろのケアの見直しを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で報告や話し合いが行われている。議事録もきちんと整備されケアに活用されている。会議のメンバーには地域のみならず役場の関係者も出席されていることから十分な話し合いの場が設けられ、サービス向上に取り組んでいる。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居相談や他制度のこと、家族のわからないことなど気軽に電話をしたり直接訪問し、市町村の窓口からも受け入れられている。併設の在宅支援センターもあることから、日ごろから地域福祉の連携はとりやすいポジションにもあり、それぞれの役割、機能分担がされている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や会議の場で学ぶ機会が多い。法人での研修にも積極的に参加し、学習する機会が職員に与えられている。現在、権利擁護や成年後見制度を活用されている利用者はいないが、過去には実際に活用し支援していた実績がある。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修等で学んだことを施設内で勉強会を行うなどして、学ぶ機会を持っている。虐待や拘束といった利用者に不利になる行為は一切見受けられない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、家族との話し合いの機会を設け十分に説明されている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会ごとに状況報告やお知らせなど家族と積極的なコミュニケーションが図られている。定期的な瓦版も発行され情報の発信がされている。遠方にある家族には、電話や手紙にて報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会の際に口頭で聞くようにしている他、請求書送付時に意見用紙を送ったりして意見等をいつでも聞ける体制ができています。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際は引き継ぎをしっかりと行うようにし、利用者へのダメージが少ないように前もって利用者に話すようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会があり、また外部研修にも職員が参加している。資格取得の研修会も行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者との交流する機会をもっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が利用者に会いにいたり、グループホームに来てもらったりし場の雰囲気に馴染めるよう、また安心してサービスが利用できるように家族等とも相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で本人の出来る事、得意としていることが行えるようにしており、畑の作り方等を利用者から教えてもらうなど、共に支えあう関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろのコミュニケーションから希望や意向の把握に努めているほか、ご意見用紙を用意しており家族からの聞き取りで主体的に暮らせるように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成は本人、家族、職員と話し合い本人に合ったプランの作成をしている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを実施している。また、本人の変化に応じた見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの利用者と共に慰問への参加、ケアハウスの入居者との外出など交流が図られている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への通院のみならず、希望があれば本人の行きたい病院へ行けるように支援している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日ごろから主治医、家族と連絡し合うようにしている。終末期のあり方については入居前に文章で説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関わるものは全て配慮されており、面会簿も個人ごとになっている。居室の名札も家族より同意を得てから表示している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の思いや希望を尊重し何事にも利用者一人一人のペースを守るよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけができる利用者は職員と一緒に 行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉で毎日いつでも入れるようになっており、利用者のニーズに合わせて入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開閉等の役割や、畑作りなど個々の生きがいを大切にしている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事を計画し買い物、散歩など外出できるように支援している。通院時などに買い物してきたりと個別に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、勉強会を行い全職員が身体拘束に関して理解している。身体拘束はしていない。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに過ごしている。	○	防犯上、玄関から中に入るには暗証番号の入力または職員が対応しなければ開けることが出来ない構造である。また、中からはリモコン操作でドアを開けるタイプであり、利用者にとっては手が届きにくいところにあると感じた。もう少し工夫することで利用者が自由に出入りできる玄関になると思われる。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全館スプリンクラーが設置されており、併設される事業所と合同で年2回夜間、日中想定避難訓練を行い地域協力委員の参加も得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆の嗜好を取り入れながら併設されている事業所の栄養士が献立を作成しており、バランスのとれた食事が摂れる。食事の他に午前、午後にティータイムを設けたり、入浴後には水分補給を行っており十分な水分が摂れている。食事、水分摂取量は毎日記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のためのマニュアルが作成されている。また、手指の消毒液を置く等、予防も徹底されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、季節ごとに飾りつけもされており各ユニットが居心地のよい環境づくりの工夫がされている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れ親しんだ家財道具の持込の協力依頼がされている。		

※  は、重点項目。